



ひまわり

【『ひ・ま・わ・り』のごとく】こころもからだも元気な声の栗ノ保っ子



2学期スタート【より高みを目指して！】

9月1日(火)長い長い45日間の夏休みを過ごし、ひと回りたくましくなった児童が学校へ戻ってきました。この45日間がスタートする前に「自己指導能力を試す夏休みに！」と児童には話をしました。自分で決めて使える時間が増えた休み期間中、どのような目標を立て、その目標を達成するべく時間を使えたのか、ということが一つの指標です。大人でも難しいことかもしれませんが、繰り返し意識してやっていくうちに少しずつ身に付いていくのではないのでしょうか。学校生活では大半が決められた時間の使い方です。これからも休日や放課後の自分で決めて使える時間でTRYし、自己指導能力を高めていけるといいと考えています。

さて、4～5月は【学習・生活のルールづくり】、6～7月は【学習・生活の習慣化】として学校生活を過ごしてきました。9月は引き続き【学習・生活の習慣化】を基底とし、1学期からの積み上げを強固なものにしていくことに注力していきます。

2学期は学習や運動に適した時期であると言われています。イングリッシュキャンプ(5・6年生)や企業出張事業など外部機関との連携、運動会や音楽会などのスポーツ的文化的な行事も計画されています。学童期は、多様な経験をするのが大切です。「本物に触れる」をキーワードに、保護者、地域、関係諸機関と連携・協働しながら、「キャリア教育」を視野に入れた教育活動を実践していきたいと考えています。

保護者・地域・関係諸機関の皆様、2学期も本校の教育活動へのご理解・ご協力・ご支援をよろしくお願い致します。

令和の時代が求める児童像

文部科学省の「令和の日本型学校教育」では、全ての子ども達の可能性を引き出すことと、個別最適な学びと協働的な学びの実現が中心に置かれています。その中で「自ら学ぶ子」「他者と協働できる子」「多様性を認め合える子」「変化に対応できる子」「学んだことを社会につなげられる子」として児童像が掲げられています。本校は小規模校です。ここで6年間学び、卒業後は羽咋中学校であれば1学年100人超(1クラス30人超)の集団の中で生活・学習することになります。そんな集団の中でも6年間で学んだことを基盤として、自分の考えをもち、他者を認めながらアウトプットし、良いと考えることを実践できる栗ノ保っ子であってほしいと考えています。そのためには、様々な本物と出会い、本物に触れ、経験体験を積んでいくことが重要です。学校の中だけでは留まることなく、地域(粟ノ保地区、羽咋市、石川県)に出て学習していくことが求められます。先日の佐渡での研修に参加した6年生4人のように、自分から外に出て学ぶ姿勢を大切にしたいですね。

【経験は知なり宝なり】【百聞は一見に如かず。百見は一行に如かず。】です(私の大切にしていることです)。

9月のキーワードは【協働】です。9月には、児童がとても楽しみにしている運動会があります。6年生にとっては小学校生活最後の運動会。これまでの先輩方の姿を目標として、一人一人が栗ノ保小学校のリーダーという意識をもち、練習から本番当日まで素敵な姿を見せてくれるものと期待しています。小規模校ゆえに5年生、4年生もしっかりサポートすることでしょう。そして1～3年生も一人一人の力+力+力で行動として取り組んでくれるでしょう。

各団のスローガンのもと、全校児童と教職員、保護者・地域の方々みんなで作上げましょう。

9月 September

きょうどう

協働